

小千谷市真人・岩沢広域集落協定（新潟県小千谷市）



○ 集落協定の広域化を契機とした事務局の設置と集落の将来像を話し合い、インターンシップ生の受入れ等を通じた「多様なムラの担い手づくり」の仕組みを構築。

協定面積：田 118.8ha(超急傾斜:7.4ha・急傾斜:70.9ha・緩傾斜:40.5ha) 交付金額:2,412万円
 協定参加者：農業者143名、農業法人2、農業者以外26名 協定開始：平成29年度

地域の現状

- 積雪3m以上の豪雪地帯である小千谷市の南部に位置し、集落の高齢化や人口減少による人材不足が深刻化。
- 各集落で本制度に取り組んでいた6集落が、本交付金の加算措置を活用し、平成29年度から広域協定を締結。広域化を契機に設置した事務局へ交付金事務を委託し、事務を効率化。集落戦略の作成により集落の営農体制を話し合い、将来像を共有。
- 都市農村交流では、人材確保につながらず、営農に携わる人が減少し、将来的に農地を引き受ける者の見通しが立たなくなることを懸念。



【協定農用地】



【農家民宿】

取組の概要

- 集落や協定事務局の経験から、農的な暮らしを志向し、集落に訪れる者でも、即定住・就農することは経済的にも心理的にもハードルが高いと考え、本交付金の試行加算を活用し、4人の大学生を3週間のインターンシップとして受入れるなど、試行錯誤の末、「多様なムラの担い手づくり」の仕組みを構築。
- 廃校校舎の一部を改装し、漬物加工した地元野菜・山菜を、イベントやJR新潟駅や長岡駅のテナントで常設販売。
- 協定の中心的な役割を担う手農業法人に代表の息子や20代半ばの青年が新規就農するなど、新たな人材を確保。
- 令和元年度からは、新たに本交付金に取り組み始めた2集落を加えた8集落で活動を実施。



【インターンシップ生の受入れ(左)と加工所見学(右)】



【野菜や山菜の漬物】